

本年度経費の新営費に關し、翌二十六年六月二日に岡倉校長は譴責を受け、會計主務官安井一匡は罰俸を科せられた。兩者の履歴書にはそれぞれ次の記載がある。

「明治廿五年度東京美術学校新営費ノ項ニ於テ豫算令達額ニ對シ金百五拾三圓六拾三錢超過ノ仕拂請求書ヲ發シタル段職務上不都合ニ付譴責ス 文部省」

「明治廿五年度東京美術学校新営費ノ項ニ於テ帳簿ノ記載ヲ誤リ豫算令達額ニ對シ金百五拾三圓六十三錢超過ノ仕拂請求書ヲ調定シタル段職務上不都合ニ付月俸十分ノ一ノ罰俸ヲ科ス」

なお、この新営費については記録が現存しておらず、金額、用途は不明である。

② ババリヤ万国美術展覽會

明治二十五年、ババリヤ（バイエルン）・ミュンヘンで開催された同展覽會に際し、日本政府は賛同の要請を拒否したが、本校の岡倉校長は独自に出品の勞をとり、協力した。その間の詳しい事情は不明であるが、新聞の中には二三、この件を採り上げているものもある。

○我繪畫歐洲美術中に加はる

是まで歐米多數の碧眼は東洋の繪畫を見て美術外に置きたるが近頃其風韻と意匠の遙に油繪の上に駕することを覺り獨逸聯邦のバ、リヤにて今年八月に美術展覽會を開設し我繪畫をも陳列するこ

とを申來り是ぞ我繪畫の歐洲美術中に加はりし初めなれば岡倉美術學校長は東洋繪畫の妙趣を彼等に教示する爲め自費を以て渡航する筈にて夫々へ通知ありしを以て京都にては幸野梅嶺、原在泉、岸竹堂、今尾景年、望月玉泉、土佐光武、森川曾文等の諸名手が揮毫して出品する由なり

（明治二十五年四月二十四日『大阪朝日新聞』）

○獨逸萬國美術博覽會

同會は本年秋季開設する筈にて我政府にも曩に出品を申來りたるも賛同せざりしか一己人にて出品せんとせしものもありて既に東京美術學校教員及京都の畫工等より數十點出品することに決し兩三日前便船にて回送したりと云ふ

（明治二十五年五月二十一日『経世新報』）

岡倉校長は西歐で日本画が美術として正当に評価されることを期待して出品に協力したものと思われる。本校からは川端玉章筆「海辺漁家ノ図」「葡萄栗鼠ノ図」「山水ノ図」、橋本雅邦筆「夏景山水ノ図」、狩野友信筆「羅漢ノ図」等を出品した。岡倉校長は渡欧も計画していたようだが実現しなかった。明治二十六年に至り、ババリヤ国王から岡倉校長に対して「ハイリケ・ミッハエル」第二等勲章の贈与があった。